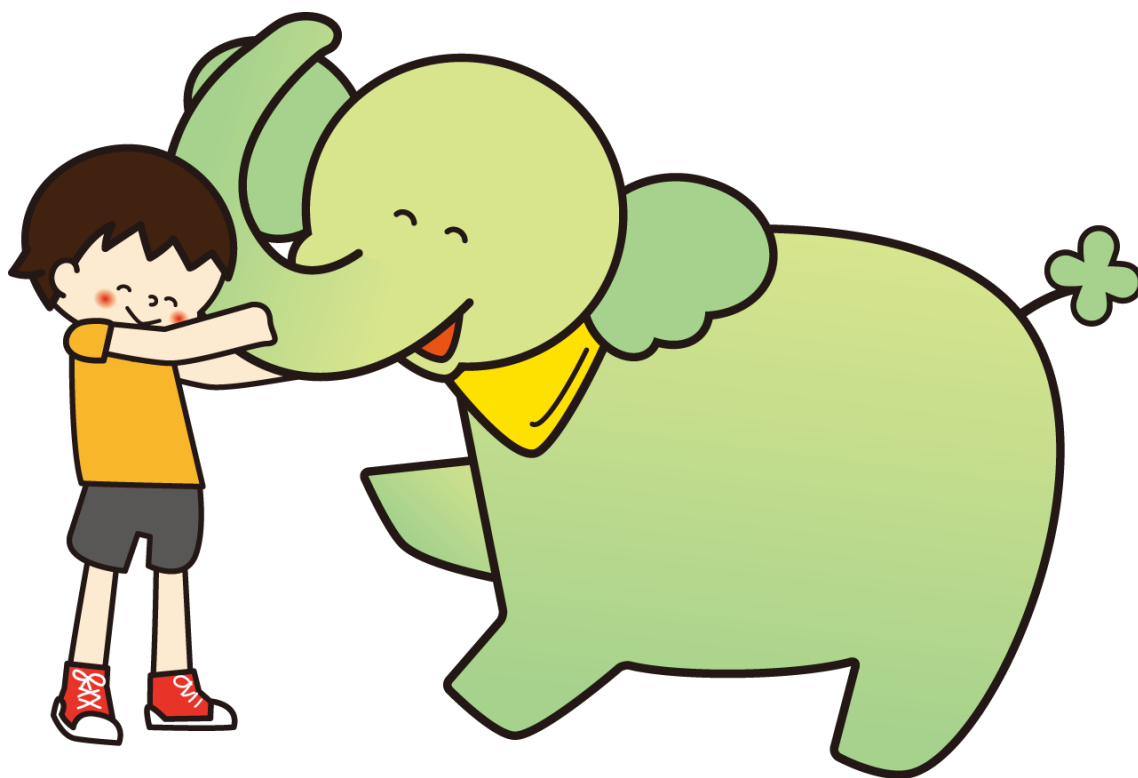


NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

第2回 子どもアンケート

2022 年5月 12 日



NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき
〒850-0057 長崎市大黒町 4-26-302
(NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会内)



NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき 第 2 回子どもアンケート

I 調査について

●実施主体

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

●実施日・場所

2022 年 4 月 16 日(土) 11 時～15 時

みらい長崎ココウォーク2F(長崎市茂里町)

●対象

高校生以下(中学校卒業から 18 歳まで)の子ども

●実施方法

・対象に声をかけ、回答者を募る

・あらかじめ用意した質問と答えに対して、各年代ごと(高校生(中学校卒業から 18 歳まで)、中学生、小学生、小学生未満)に色分けされたシールを貼ってもらう

いま困っていることはありますか？				
がっこう 学校のこと	べんきょう 勉強のこと	いえ 家のこと		
ともだち 友達のこと	からだ 体・こころのこと	しょうらい 将来のこと	ない	こた 答えた ない

そのことを話せる人はいますか？				
おや 親	ともだち 友達	せんせい 先生		
きょうだい	ネットの人	それ以外の人	いない	こた 答えた くない

Ⅱ 調査結果

●回答者人数及び学年

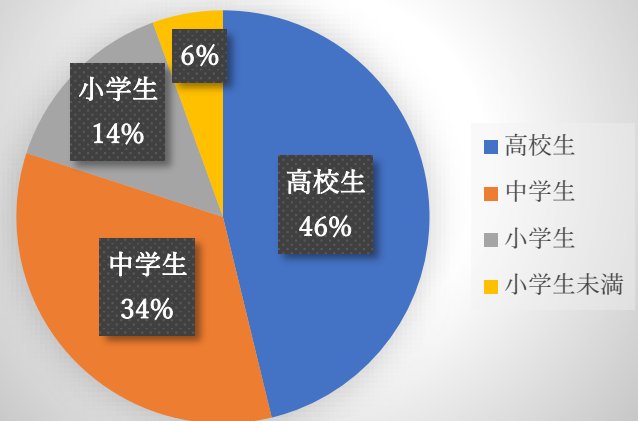
- ・総回答者数:145 名
- ・高校生(中学校卒業から18歳まで):67 名
- ・中学生:49 名
- ・小学生:21 名
- ・小学生未満:8 名

※これより以下のグラフには、小学生未満の回答は反映していません。小学生未満の回答は質問の理解が難しかったり、保護者の意見に左右される場面も見られたためです。

それでも回答欄を用意したのは、例えばきょうだいでアンケートに回答していただける場合、弟妹と一緒にシールを貼りたいと思った場合の受け皿が必要だと考えたからです。

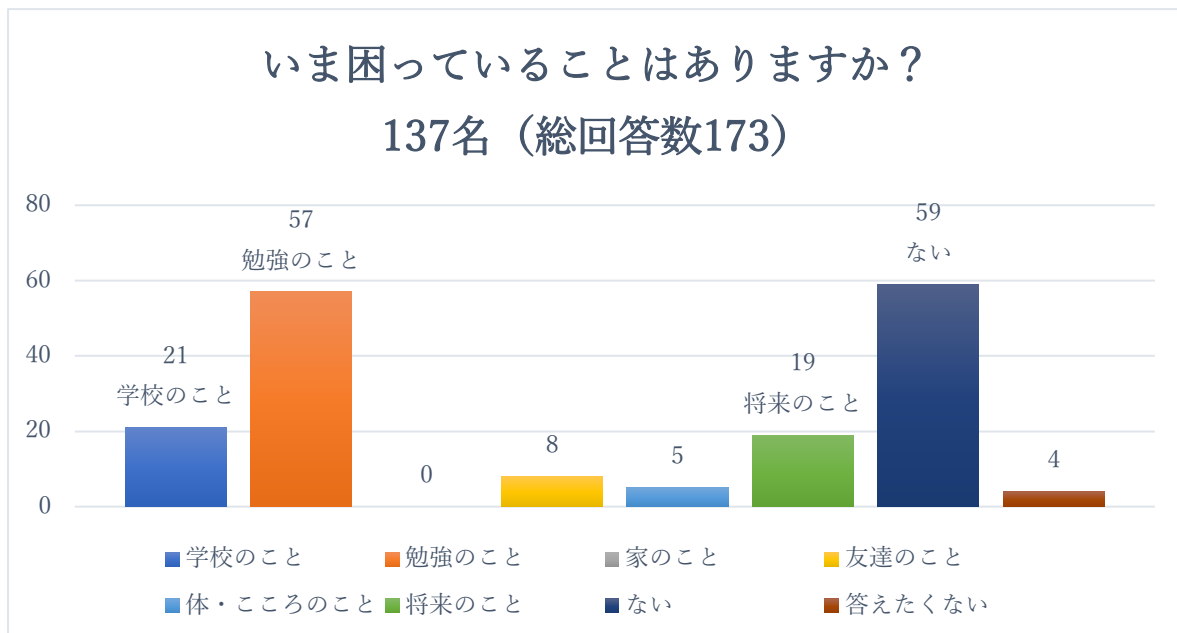
これは小学生未満の回答を無意味だと捉えているわけではなく(母数が少ないということもあり)、比較や考察に当たって、今回は小学生未満の回答を除いて行うことが適当だと考えた結果です。どうぞご理解ください。

回答者合計 (145名)



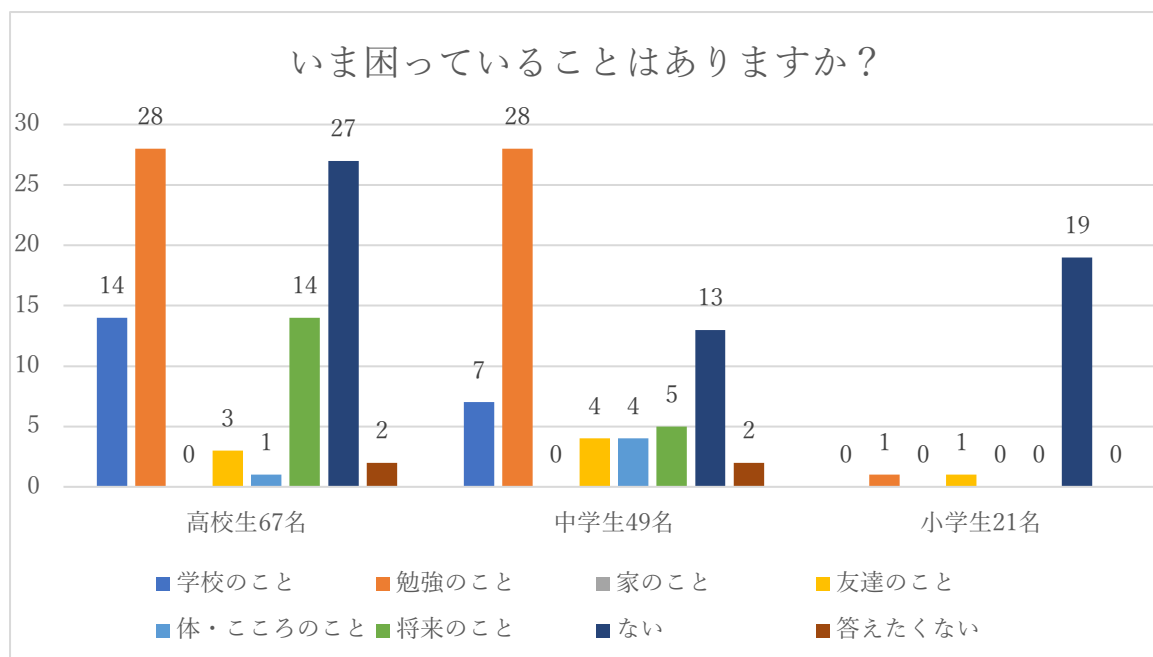
① 質問:「いま困っていることはありますか?(複数回答あり)」

回答項目:学校のこと、勉強のこと、家のこと、友達のこと、体・こころのこと、将来のこと、ない、答えたくない、以上8項目



- ・一番多かったのが“ない”、次いで“勉強のこと”“学校のこと”“将来のこと”となった
- ・137名のうち57名(42%)が“勉強のこと”を選んだ
- ・137名のうち21名(15%)が“将来のこと”を選んだ

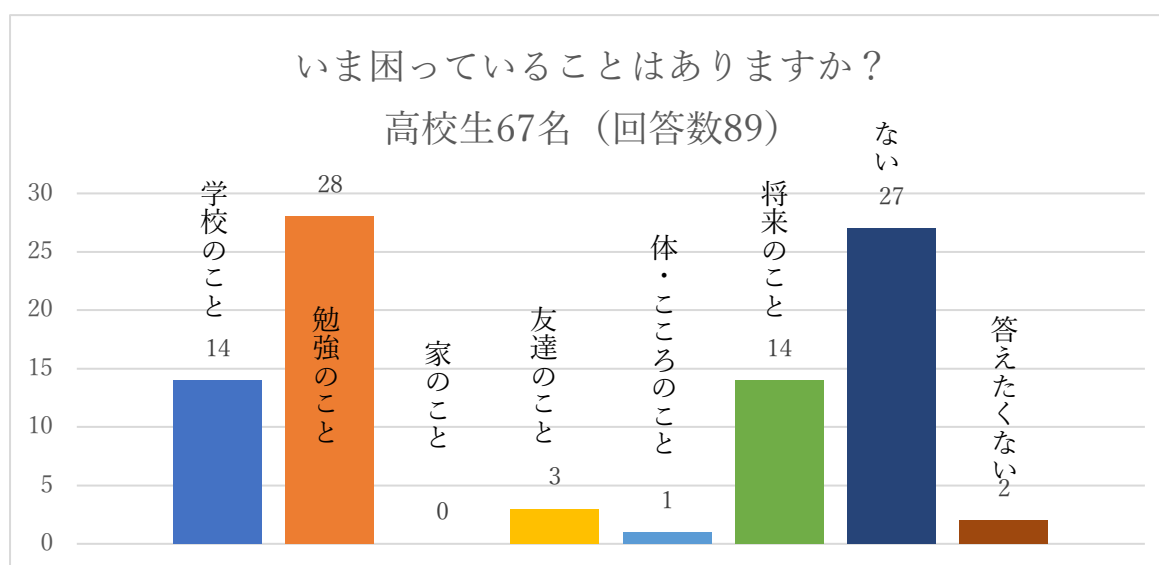
●小・中・高校ごとの比較



- ・高校生、中学生は“勉強のこと”が一番多かった
- ・小学生は“ない”が一番多かった。“ない”は全学年を通して多かった。
- ・“家のこと”を選んだ学年はいなかった
- ・中学生は他に比べて“体・こころのこと”を選んだ人が多かった

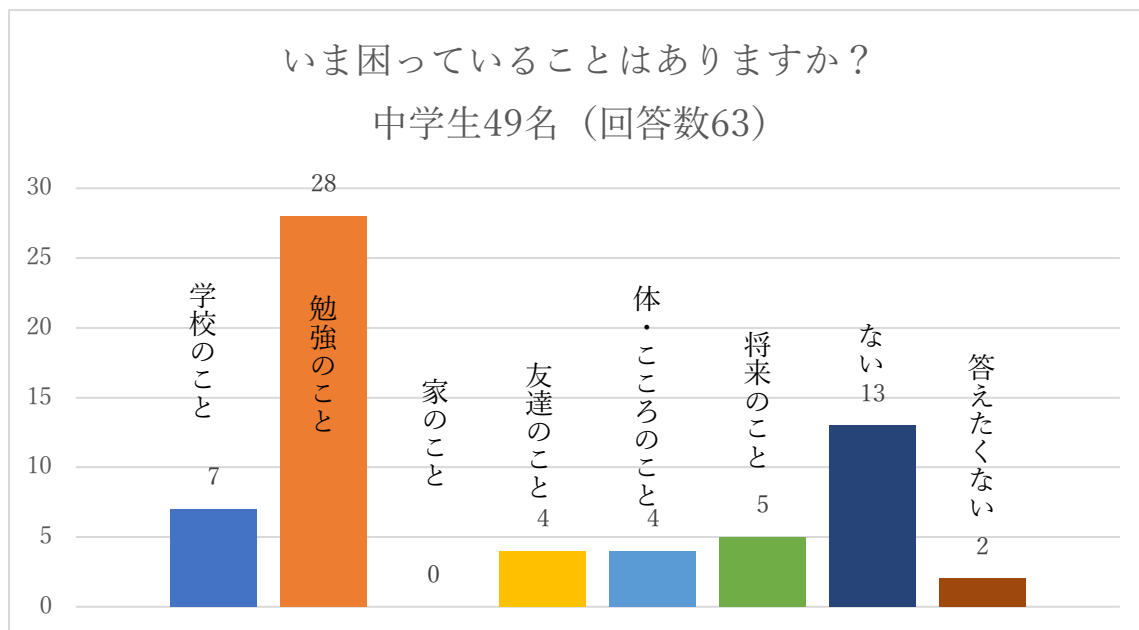
●小・中・高校別

高校生（67名・総回答数 89）



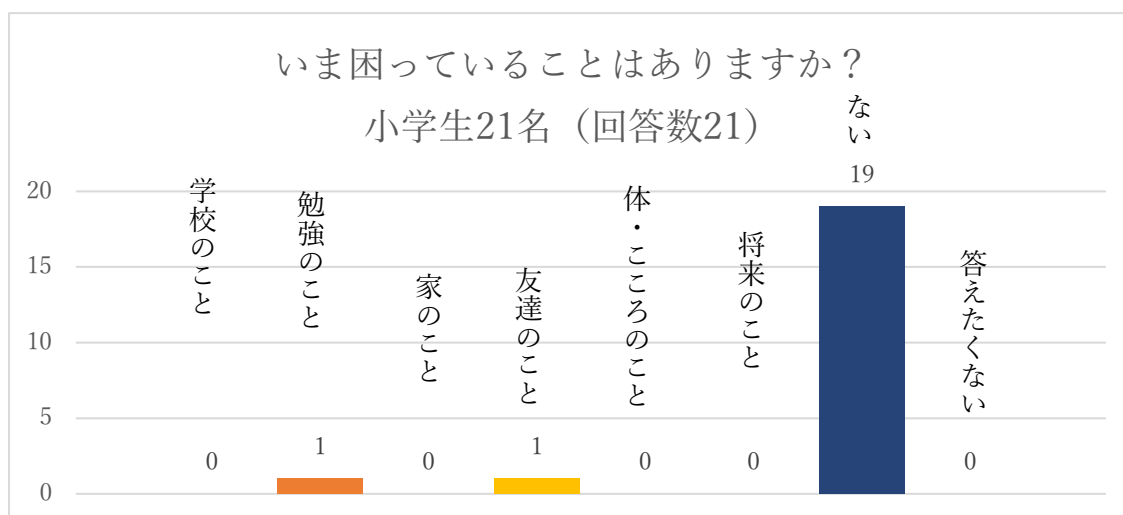
- ・“勉強のこと”が一番多く、次いで“ない”“学校のこと”“将来のこと”だった
- ・67名のうち28名（42%）が“勉強のこと”を選んだ
- ・67名のうち各14名ずつ（各21%）が“学校のこと”“将来のこと”を選んだ
- ・“家のこと”を選んだ人はいなかった

中学生（49名・総回答数 63）



- ・“勉強のこと”が一番多く、次いで“ない”“学校のこと”“将来のこと”だった
- ・49名のうち28名（57%）が“勉強のこと”を選んだ
- ・49名のうち7名（14%）が“学校のこと”を選んだ
- ・“家のこと”を選んだ人はいなかった

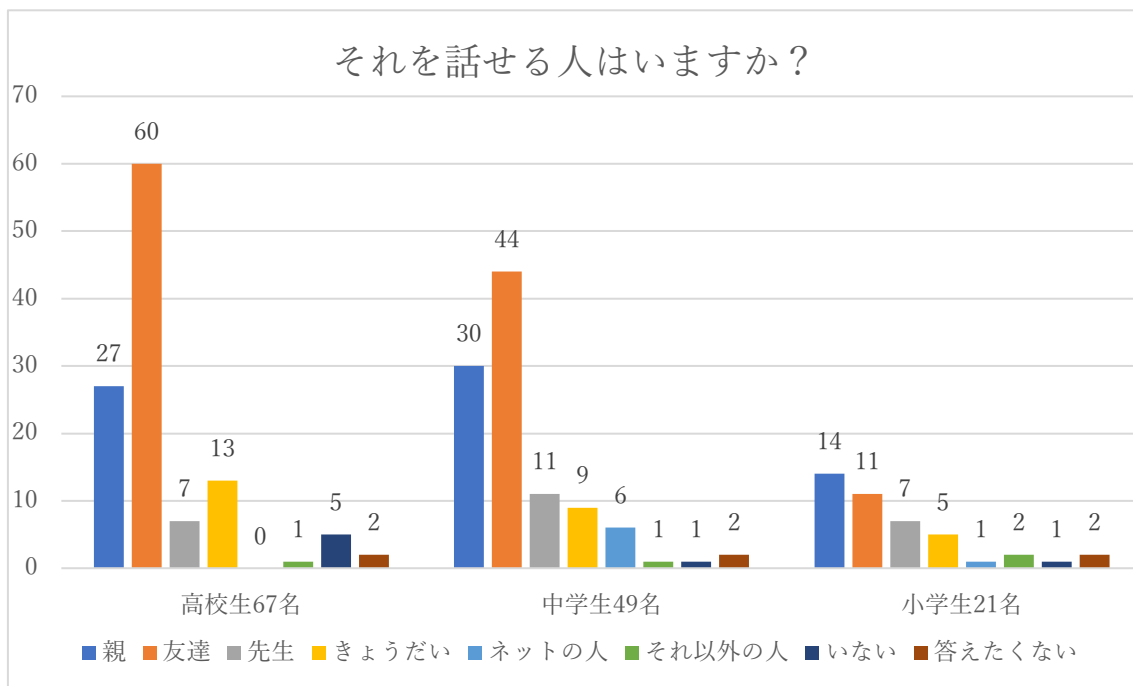
小学生（21名・総回答数 21）



- ・“ない”が一番多かった
- ・“勉強のこと”“友達のこと”を選んだ人が1名ずついた

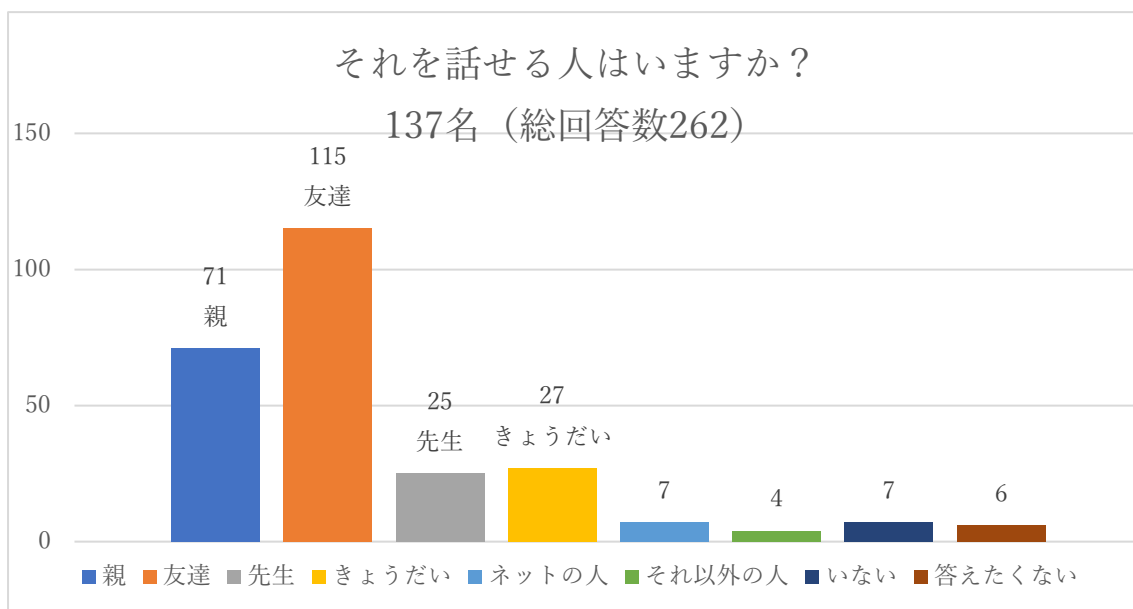
② 質問:「それを話せる人はいますか? (複数回答あり)」

項目: 親、友達、先生、きょうだい、ネットの人、それ以外の人、いない、答えたくない、以上 8 項目



- ・一番多かったのが“友達”、次いで“親”“きょうだい”“先生”となった
- ・137名のうち115名(84%)が“友達”を選んだ
- ・137名のうち71名(52%)が“親”を選んだ
- ・回答者数の倍近く回答数があるので、話せる人が複数いる人が多いと考えられる

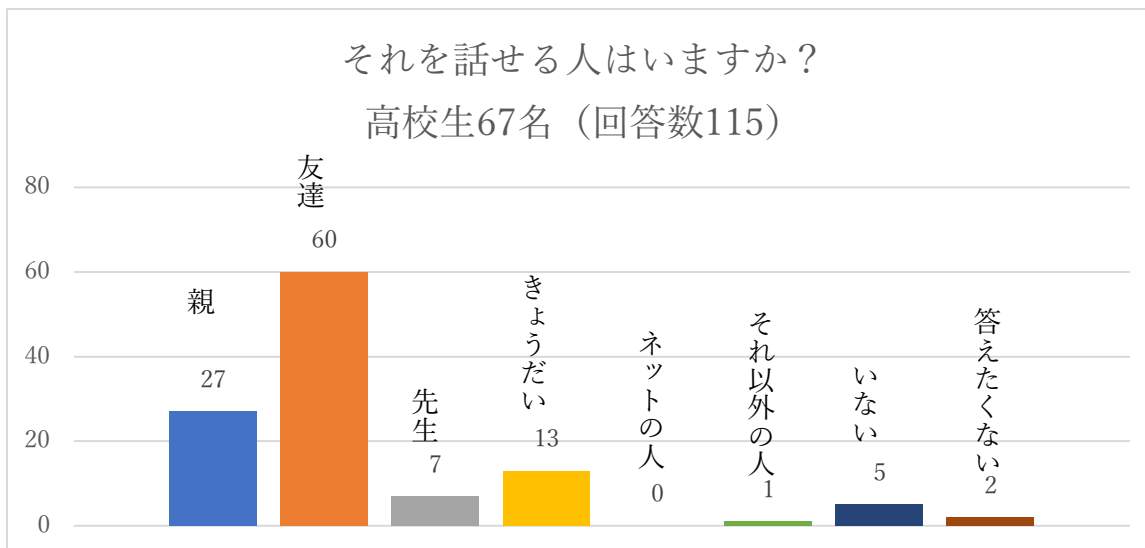
●小・中・高校ごとの比較



- ・高校生、中学生は“友達”が一番多く、小学生は“親”が一番多かった
- ・高校生は“ネットの人”を選んだ人がいなかったが、中学生は5名、小学生は1名が選んだ
- ・“いない”を選んだ人は高校生が一番多かった
- ・年代が上がるごとに“友達”が占める割合が多くなった

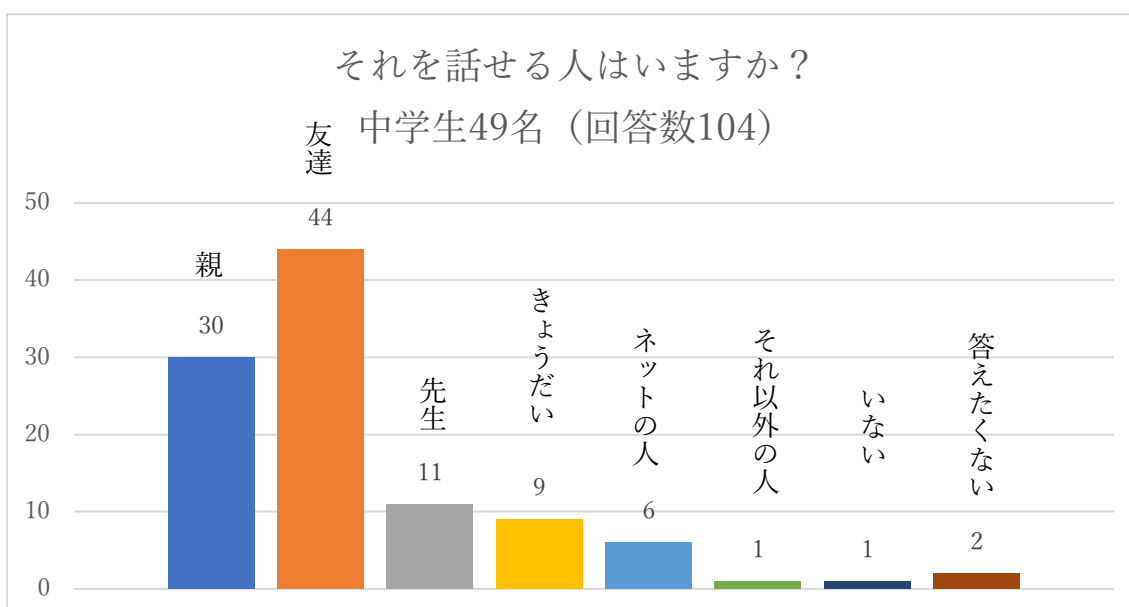
●小・中・高校別

高校生(67名・総回答数115)



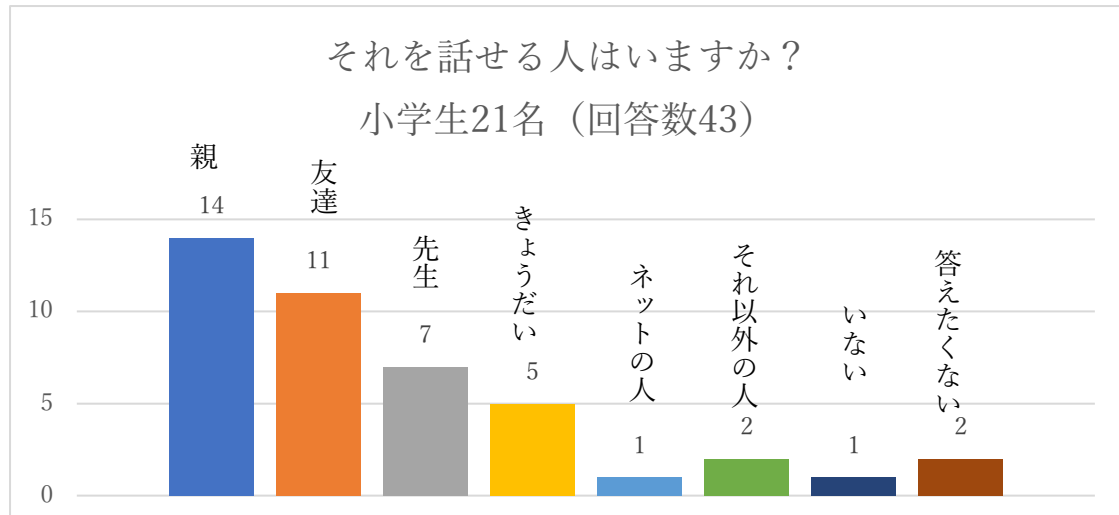
- ・“友達”が一番多く、次いで“親”“きょうだい”だった
- ・67名のうち60名(90%)が“友達”を選んだ
- ・67名のうち27名(40%)が“親”を選んだ
- ・“ネットの人”を選んだ人はいなかった
- ・“いない”を選んだ人が5名いた

中学生(49名・総回答数104)



- ・“友達”が一番多く、次いで“親”“先生”だった
- ・49名のうち44名(90%)が“友達”を選んだ
- ・49名のうち30名(61%)が“親”を選んだ
- ・49名のうち6名(12%)が“ネットの人”を選んだ

小学生（21名・総回答数43）

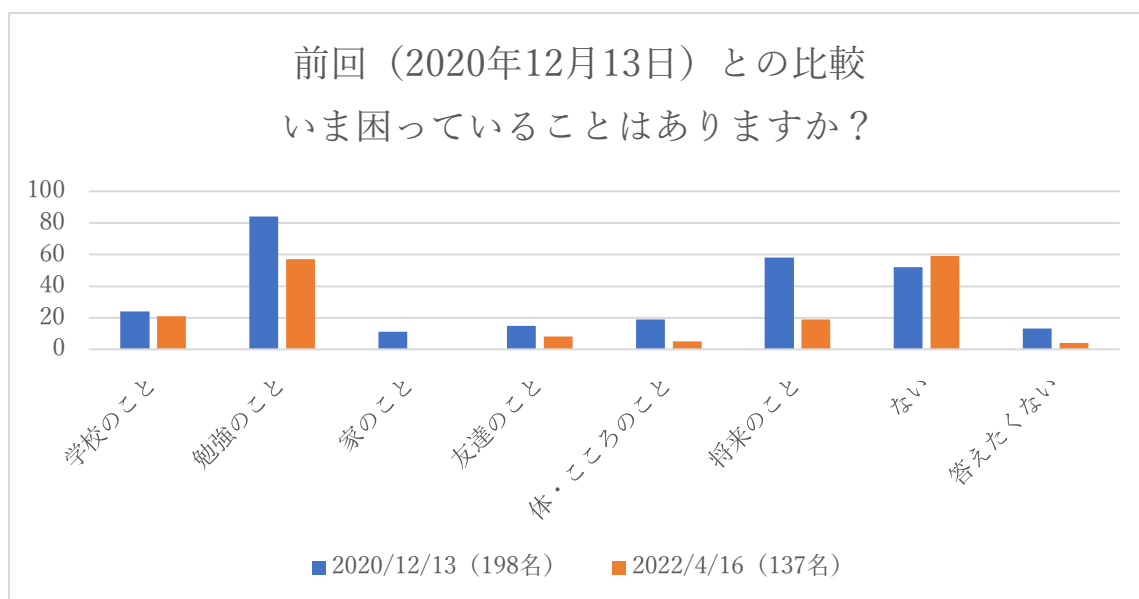


- ・“親”が一番多く、次いで“友達”“先生”だった
- ・21名のうち14名(67%)が“親”を選んだ
- ・21名のうち11名(52%)が“友達”を選んだ
- ・“ネットの人”を選んだ人が1名いた



●前回(2020年12月13日実施)との比較

・いま困っていることはありますか？



【小・中・高すべてで“家のこと”の回答が無かった】

コロナに対する落ち着きのようなものが影響しているかもしれません。前回は今に比べるとコロナに対してはまだ戸惑いも多い時期だったと考えられ、前回はそれが悩みや困りとして現れていたと思っています。前回の数字がもしかすると多いと考えられるのかもしれません。

【困っていることに対する全体的な回答の減少】

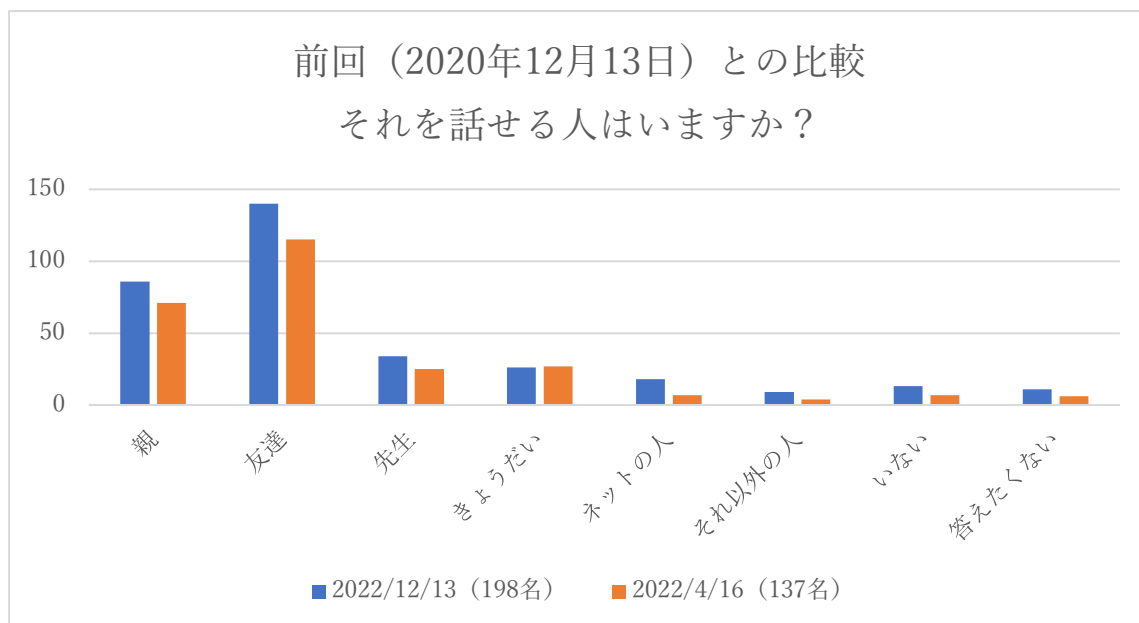
“将来のこと”“体・こころのこと”に対しての回答が少なく、また、“ない”が多かったことから、上記と同様にコロナに対する落ち着きのようなものが影響しているのかもしれません。

【勉強は変わらず困りごと】

“勉強のこと”に関しても減ってはいるものの回答は多く、変わらず困りごととして捉えられているようです。



・それを話せる人はいますか？



【友達の回答が一番多い】

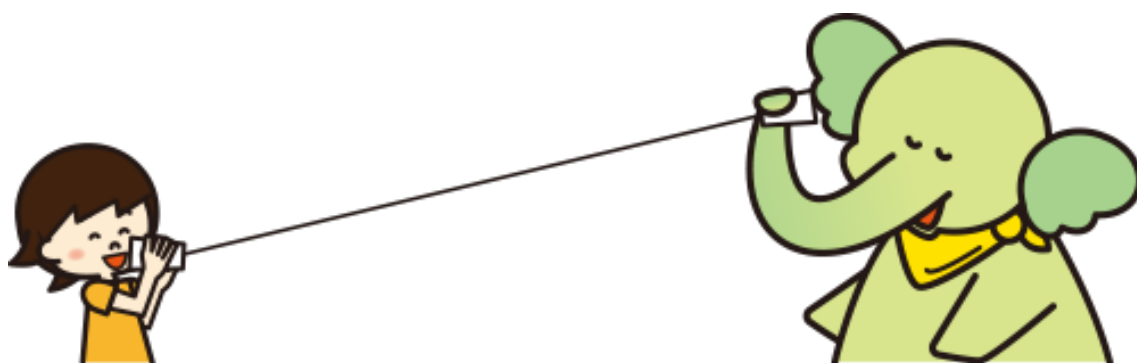
これは前回と同様です。8 割の子どもが話せる人に友達をあげており、これは前回も言いましたが、友達関係のトラブルが起ってしまうとかなり追い詰められてしまう、私たちが考えるよりも子どもには重大な悩みとなってしまうと言えると思います。

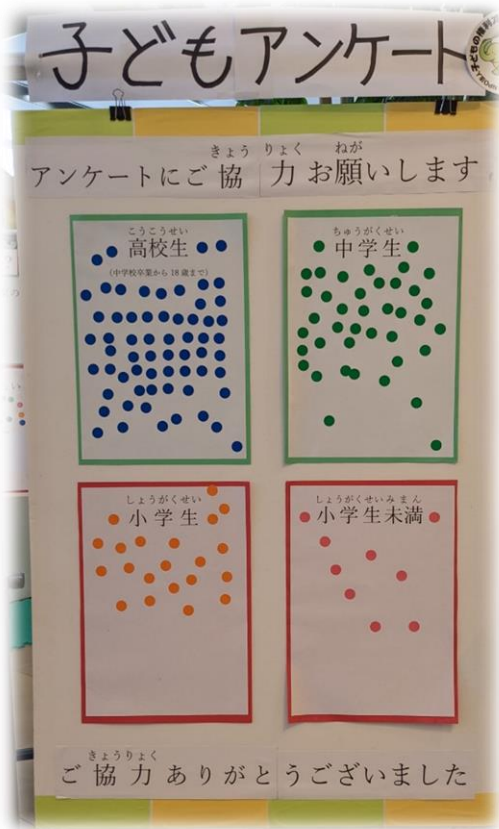
【回答者数 137 名に対して回答数 262】

およそですが1人 2 カ所に貼っていると考えると、話せる人が複数人いる人が多いのかもしれませんが。そう考えると話せる人は複数人いた方がいい(複数人必要)ということかもしれません。友達のところには2枚貼った人は「人によって話せる内容が違う」というようなことを言っていました。

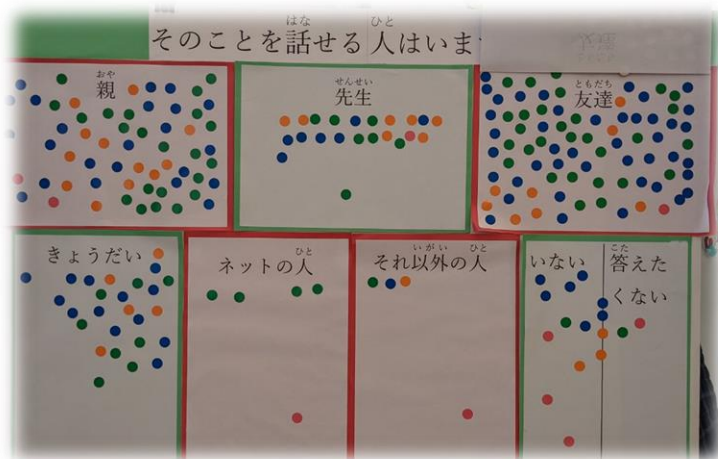
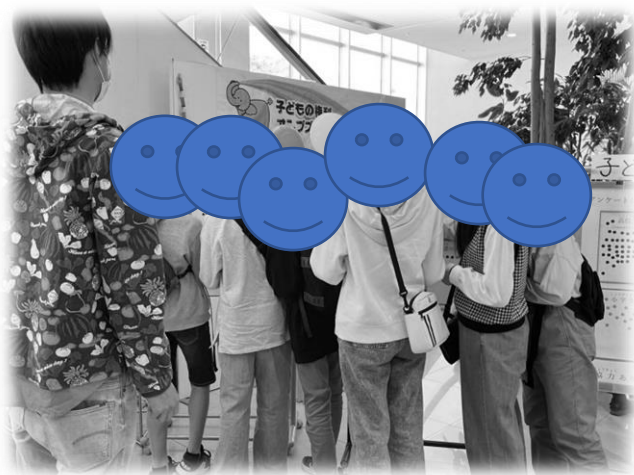
【“ネットの人”高0中6小1】

オンラインで人と繋がるのが低年齢化してきているのかもしれませんが。高0は意外でしたが、もしかするとコロナ禍でオンラインで話すことを結構やってきたが、最近ではいろいろと緩和され、オフラインの機会も増えたため前回よりも比重が少なくなったのかもしれませんが。とは言え中学生は 6 名回答があったので、多いなという印象でした。





当日の様子



おわりに

前回の実施から 1 年以上経ち、やっと第 2 回を行うことができました。前回は浜の町アーケードで実施し、今回はみらい長崎ココウォークで行ったため、場所による違いもあるかもしれませんが、全体的に「いま困っていることはありますか？」の質問に対する回答減、“ない”という回答の増加などから、困りごとが少なくなっている印象でした。前回に比べると新型コロナウイルス感染症に対する戸惑いが減ってきているのかもしれないと考え、そのことが影響しているように思います。特に“家のこと”に対する回答が全年代を通して 0 だったことは、何らか前回実施時との違いがあると思っています。

コロナに対する落ち着きについてはそれ自体が“良い”ということではなく、やはり戸惑いが大きかった可能性が前回実施時との比較によって明らかになったように思います。今後もコロナ含め様々な不測の事態が起こった際には、当たり前ですが子どもへの影響は大きく、その背景もしっかりと理解しながら私たちは活動しなければなりません。

“いま困っていることはありますか？”という質問では、前回同様“勉強のこと”が一番多くなりました。学年が上がるにつれ回答数も増え、“将来のこと”との関連もあると考えています。“勉強のこと”にシールを貼ってくれた人に「勉強大変なんだ」と話しかけると、「(高校) 3 年なんで」答えてくれました。各年代学年までは分けていませんが、もしかすると高校 3 年生、中学 3 年生などが特に“勉強のこと”を困りごととしてあげているかもしれません。

“それを話せる人はいますか？”という質問では、これも前回同様“友達”が一番多い回答となりました。8 割を超える人が“友達”と回答しており、前回の報告書にも書きましたが、子どもたちにとって友人関係がいかに重要なのかという点がわかります。それは友人関係で少しトラブルが起こってしまうとたちまち苦しい状況になってしまうと考えられ、私たちが考える以上に友人関係のトラブルは子どもたちにとってはとても大きな問題になってしまうということでしょう。通常活動の中で「クラスでひとりぼっちでどうしたらいいかわからない」という声が寄せられたこともあります。友人関係の悩みは時に「学校へ行けない」ことへ繋がってしまうため、軽く捉えてはいけないうとあらためて感じました。

また、“ネットの人”という回答が中学生 6 名、小学生 1 名からありました。どのような関係か詳細はわかりませんが、インターネットで他者と繋がることの低年齢化を感じています。匿名性も強く、気軽に繋がったり切れたりする関係は良い面もあるかもしれませんが、悪い面も想像してしまいます。ギガスクール構想などで子どもたちもこれまで以上にタブレット PC などに触れる機会も増えていきます。管理もそうかもしれませんが、それ以上に付き合い方をおともと一緒に学んでいく必要があると思います。

最後に、アンケートに答えてくれた皆様、声をかけさせていただいた皆様、運営を手伝ってくれたボランティアの皆様、本当にありがとうございました。定期的に行うことで見えてくることがあると思います。今後も街に出て子どもたちの声を聞いていきたいです。

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

代表理事 古豊 慶彦